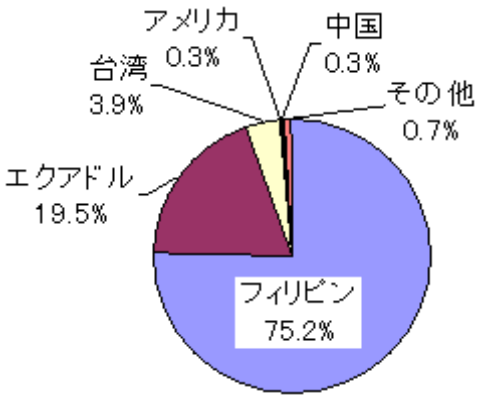
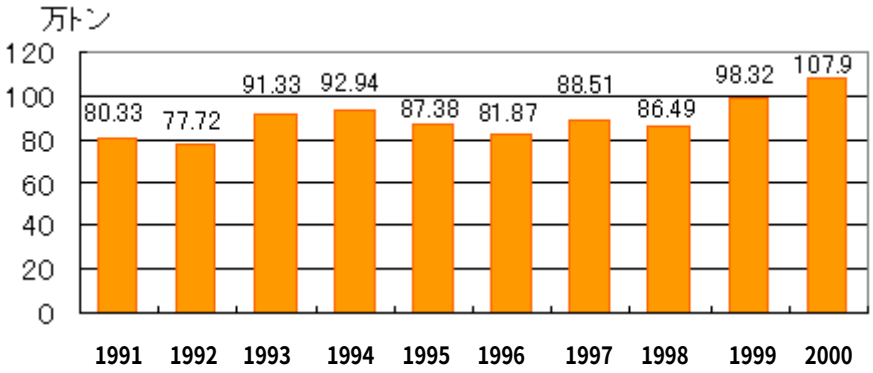
資料 02-01

国別輸入量の割合　2000 年財務省貿易統計より



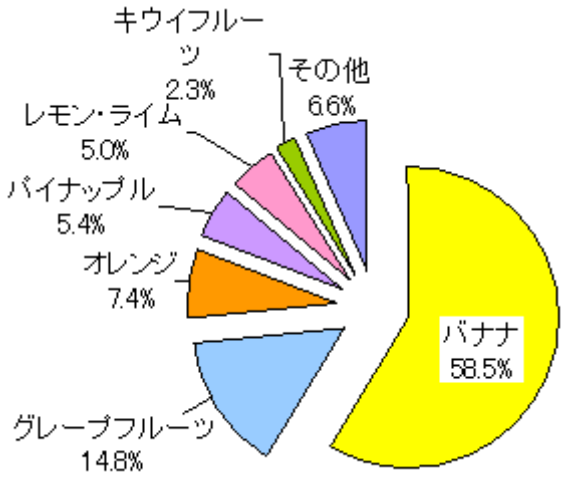
国名	数量 (t)	割合
フィリピン	811,000	75.2%
エクアドル	210,820	19.5%
台湾	42,274	3.9%
アメリカ	3,588	0.3%
中国	3,428	0.3%
その他	7,545	0.7%
合計	1078,655	100.0%

バナナ輸入量の推移 (1991～2000 年)　2000 年財務省貿易統計より

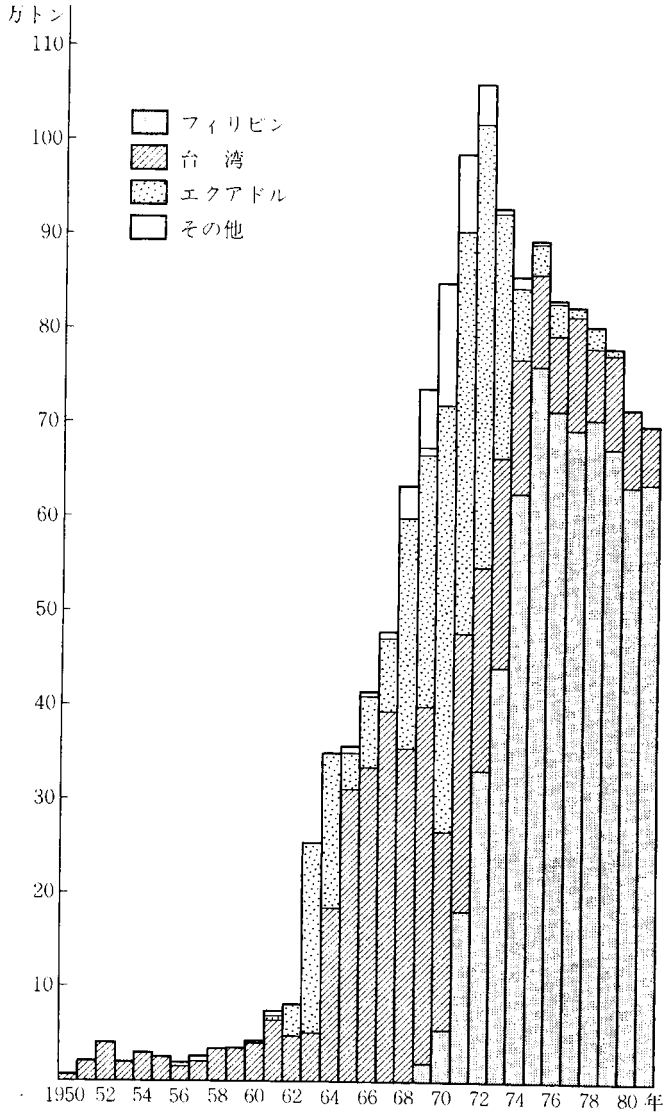


【参考】 近年の日本人 1 人当たりの年間消費量
1972 年：9.9kg (最高)
1996 年：6.5kg
1997 年：7.0kg
1998 年：6.8kg
1999 年：7.8kg
2000 年：8.5kg

生鮮果物の輸入割合　2000 年財務省貿易統計より



バナナ輸入量の輸出国別推移（1950～1981 年）



日本に流通しているバナナの主なラベル

ドール

デルモンテ

チキータ

グレイシオ

台湾バナナ

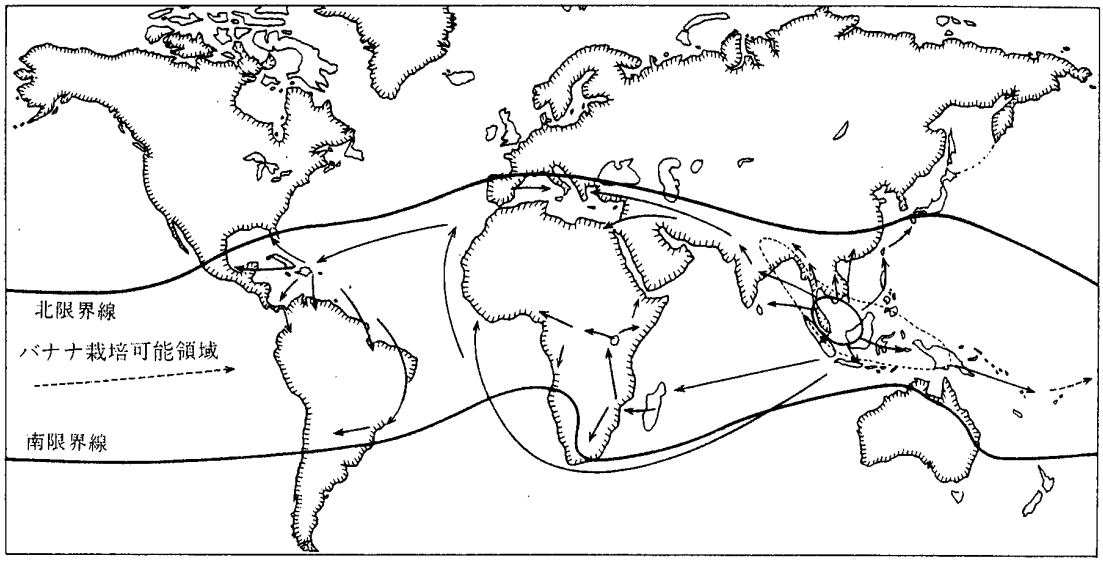
エクアドル産ボニータ

日本におけるフィリピン・バナナの市場占有率 (1981 年)

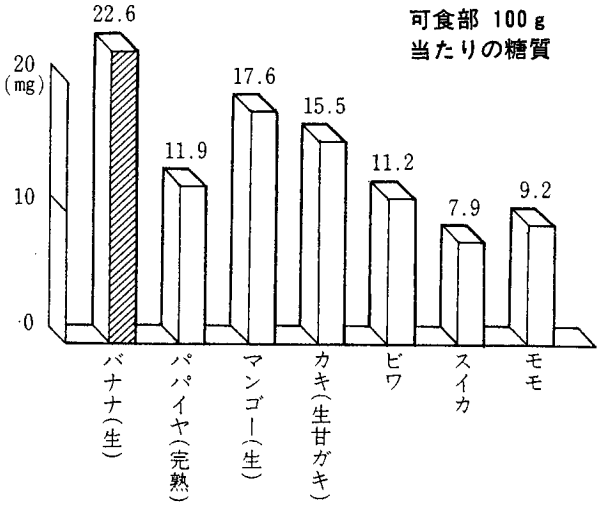
ブランド名	外資企業	輸入元	日本市場の占有率
ドール	ドール社	伊藤忠商事	31%
デルモンテ	デルモンテ社	富士フルーツ 豊田通商	28%
チキータ	ユナイテッド・ブランズ社	極東フルーツ	18%
バナンボ (現グレイシオ)	住友商事	住商フルーツ	9%
合　計			86%

バナナが消費者に届くまで

バナナの起源･伝播、栄養素、主要輸出国



バナナの起源と伝播の経路



バナナの主要輸出国 (1972～1986)　　(単位：1000 t)

国＼年	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86
エクアドル	1377	1370	1357	1362	1201	1261	1363	1386	1318	1247	1254	800	972	1208	1366
コスタリカ	1078	1179	1038	1105	970	961	955	965	888	932	919	948	938	804	882
コロンビア	195	214	336	390	457	561	592	635	692	803	758	805	921	772	864
ホンジュラス	820	850	640	370	612	695	712	895	867	788	824	639	830	932	800
パナマ	604	538	420	481	524	524	624	572	504	544	562	650	655	685	587
グァテマラ	258	275	230	240	257	261	249	236	352	357	382	267	261	319	331
ニカラグア	42	105	131	134	113	113	123	110	110	94	43	76	83	90	92
ブラジル	114	138	156	147	92	112	133	129	67	67	59	89	103	105	110
マルチニーク	192	150	187	166	211	226	243	140	73	153	157	160	159	163	186
ガデループ	120	114	118	111	108	106	133	91	57	117	122	103	125	110	119
カナリー諸島	333	381	368	320	320	325	375	364	405	411	396	402	400	400	400
アイボリーコースト	164	132	175	136	97	113	140	118	121	105	85	73	80	97	81
フィリッピン	185	466	663	823	764	841	834	859	923	869	927	643	800	800	900
台　湾	262	250	160	120	110	150	95	120	102	78	94	106	109	108	95

国連食糧農業機関資料より.

芭蕉布

作詞：吉川安一　作曲：普久原恒勇（1955 年）

1 海の青さに　空の青
南の風に　緑葉の
芭蕉は情けに　手を招く
常夏の国　我（わ）した島沖縄（うちなー）

2 首里の古城の　石だたみ
昔を偲ぶ　かたほとり
実れる芭蕉　熟れていた
緑葉の下　我（わ）した島沖縄（うちなー）

これほど長く愛され、歌い継がれている沖縄の歌はそうないだろう。修学旅行や懇親会など集いの場で、のど自慢やカラオケで、そして多くの歌手によって。それが吉川安一が作詞、普久原恒勇が作曲して一九六五年に発表された「芭蕉布」だ。
沖縄音階ではないにもかかわらず、南国のゆったりした空気に包まれたような郷愁を漂わせる。「海の青さに　空の青　南の風に　緑葉の……」詞には沖縄の自然の美しさや豊かな人情がうたい込まれている。

曲が先にできた。沖縄に滞在し、ＲＢＣが初めて手掛けたのど自慢に似たテレビ番組「タナベ日曜ホール」にゲスト出演していたハワイ生まれの沖縄系三世の歌手、クララ新川のために「沖縄らしい曲を」と知人から頼まれた普久原は「外国の人にも歌いやすいように、日本にも沖縄にもない常識破りのパターン」で作曲したと言う。普久原は、西洋音楽でも既存の沖縄民謡でもない新しい沖縄の楽曲づくりに情熱を傾けていた。

曲は割りと短時間にできあがったらしいが知人に依頼した、一番は大和口、二番は英語、三番は「混有型」の詞がなかなか仕上がってこない。

そこに、東村で中学校教師をしていた吉川から「芭蕉布」と名付けられた詞が持ち込まれた。

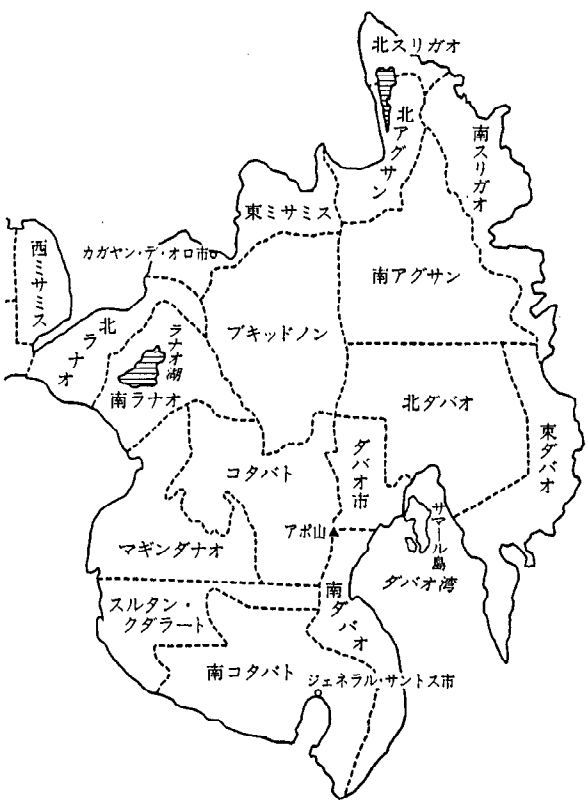
鳩間島で生まれ育った吉川は「母が芭蕉布を織っていたが、その幼いころの記憶を縦糸に、亜熱帯海洋性の温暖な自然の美や独自の言語、文化を横糸にして」ふるさと沖縄賛歌を詞にちりばめた。

とくに「地域を特定して詞を書いたわけではない」と言う。

海の青さ、空の青さには「温暖な気候や自然の美、自分の母だけでなく沖縄の女性の明るさややさしさを象徴させる」とともに「平和の色彩」のシンボルにもした。「芭蕉は情けに手を招く」には「沖縄の人たちのチムグクル（心根）、イチャリバチョーデーの精神」を込めた。

クララ新川が歌う「芭蕉布」はＲＢＣのテレビ番組で放映、世の中にデビューする。ラジオ番組「ホームソング」でも紹介され、並行して音楽テープが売り出される。人々に歌われるようになり、徐々にではあるが広まっていった。

資料02-02



ミンダナオ中央部及び東部の各州(1982年現在)

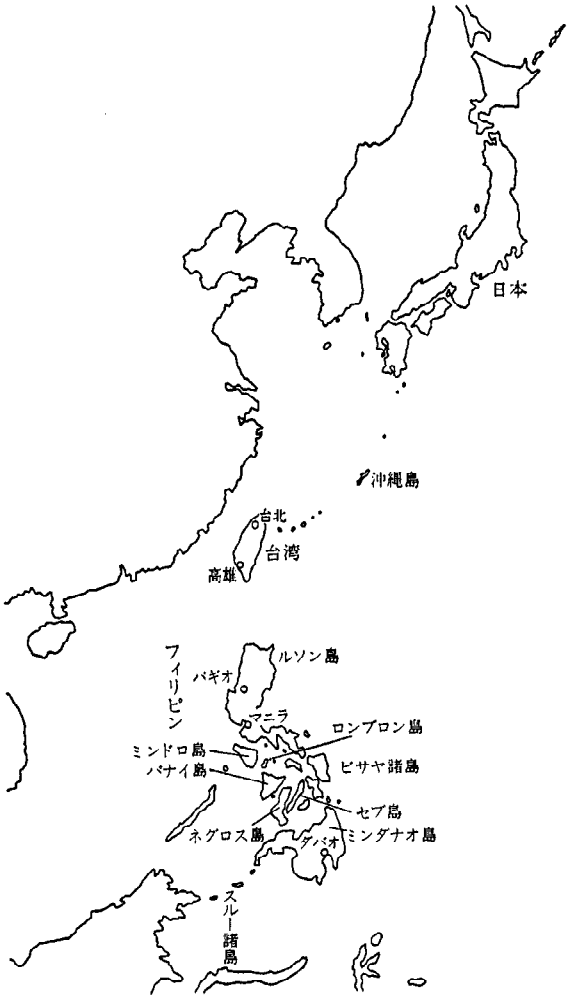


表9 契約農家S氏の精算書(1979年3月24日)

	第一週	第二週	第三週	第四週	計
納入カートン数	27.00	29.33	10.75	66.85	133.93
支払額	154.17	167.47	61.38	381.71	764.73
負債返済額	116.37	126.41	46.33	288.12	577.23
その他	30.90	30.61	15.00	85.00	161.51
現金支払額	6.90	10.45	0.05	8.59	25.99
財政援助	228.00	225.00	251.00	175.00	879.00

出所: R. S. David et al. 前出.「納入カートン数」以外の単位はペソ

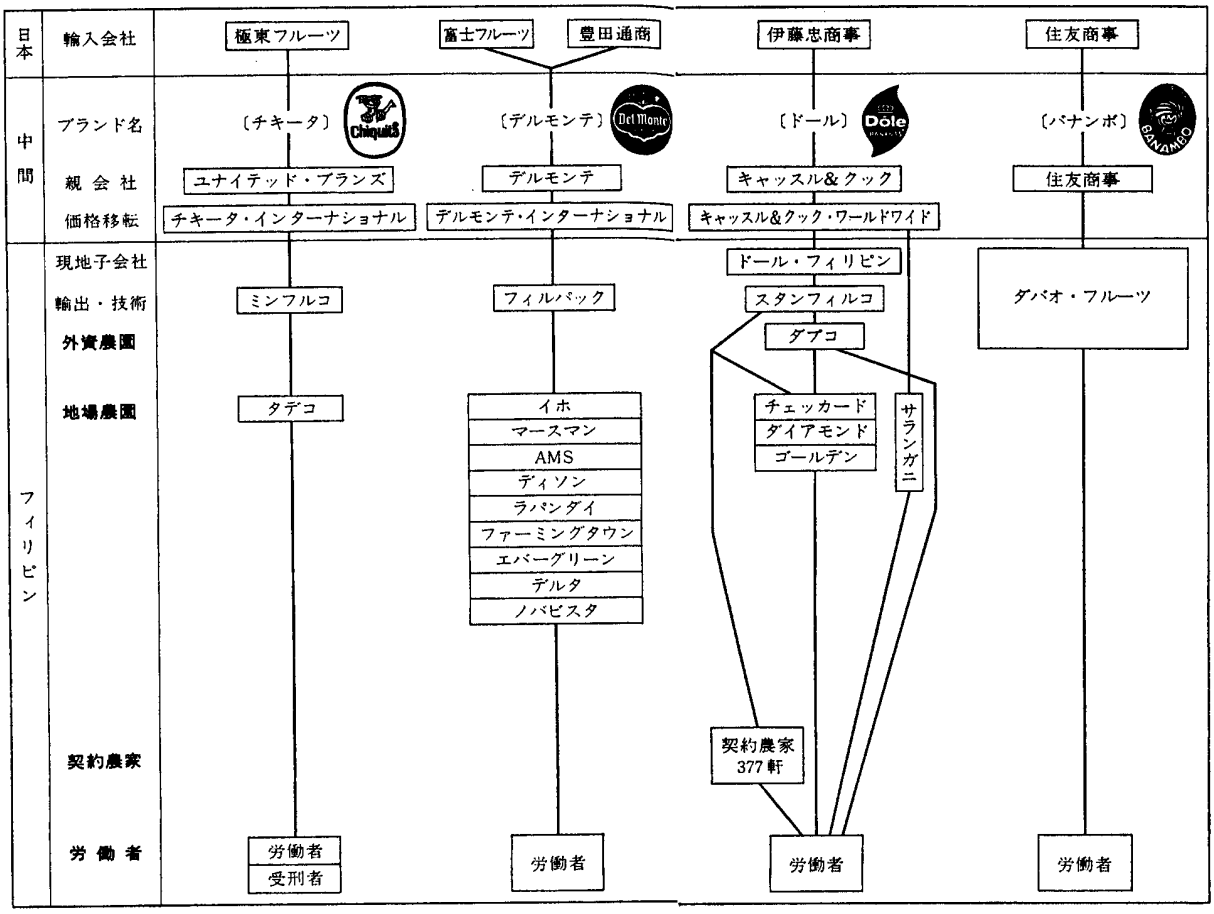


図11　フィリピン輸出バナナの仕組み

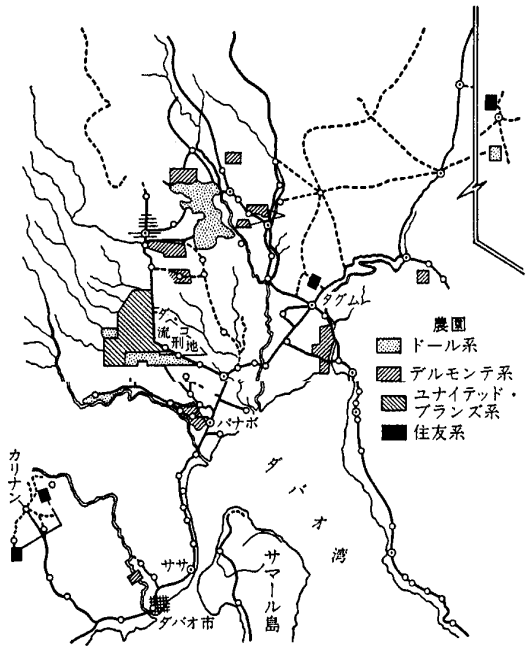


図12　ダバオのバナナ農園(企業グループ別)

フィリピン
philippines

人口(1997年央国連推定)＝7353万人　平均寿命＝男66歳,女70歳(1997)　通貨レート＝1ドル＝40.40フィリピン・ペソ(1998年10月31日現在)　国民総生産＝833億ドル(1996)　1人当り国民総生産＝1160ドル(1996)　貿易収支＝輸出205億ドル,輸入319億ドル(1996)

【政治】 1946年の独立以来フィリピンは,1935年憲法にもとづくアメリカ型議会民主制をとり,ナショナリスタ党,リベラル党の二大政党がほとんど交互に政権を交替していた.この安定状態を破ったのはマルコス長期政権(1965-86)の出現である.

[**マルコス時代**] 共和国史上初の再選を果たしたマルコスは,1972年9月戒厳令を布告,議院内閣制を規定した1973年憲法の公布を強行した.ただし新憲法にもとづく暫定国民議会は召集停止にしたまま旧憲法下の大統領権限は保持した.結局,81年1月戒厳令を解除した際には,フランス型の新大統領制への改憲に持ち込み,そのもとで大統領に選出された.

1970年代初頭における強権政治への暗転にはそれを招いた客観的な背景がある.そもそも1935年憲法下の議会民主政治の実態は,二大政党に集まる伝統的な各地有力家族による支配ということであった.両党間に政治基盤や政綱の上で差はなく,ともに現状維持を利益としていた.経済開発の促進,土地改革はじめ社会改革の推進,他方アメリカへの過度の依存からの脱却という焦眉の課題への対応力を欠いており,その点で〈寡頭支配の打破〉〈新社会の建設〉の旗印を掲げたマルコスは,フィリピン国軍やテクノクラート,取巻きビジネス・グループばかりか,広く国民大衆をたやすく惹きつけることができた.

しかし戒厳令初期には強権を背景に矢継ぎ早に展開された革新的政策も1970年代末には活力を失った.そのなかで第2次石油危機後の世界不況に加えて,83年8月のベニグノ・アキノ元上院議員暗殺事件に起因する政情不安が,深刻な経済危機を呼び起こした.アメリカはじめ国際的な批判が高まり,抑圧されてきた有力家族など反マルコス派は,人権擁護と民主主義を掲げるカトリック教会や多様化した市民運動とともに政権打倒運動を活発化させた.マルコスは事態の打開を大統領選挙の繰上げ実施に賭けた.

[〈**ピープル・パワー革命**〉] 1986年2月の大統領選挙は国際的注視を浴びた.混乱した開票経過のなかでマルコスの当選宣告が強行されたが,その直後,国軍改革派を背景にしたエンリレ国防相とラモス副参謀長が野党統一候補コラソン・アキノ(故アキノ議員夫人)Corazon Aquinoを擁して決起したことで様相は一変した.反乱派を教会が支援し市民大衆が厚い盾となって防衛するなかで,アメリカ政府が事態収拾の主導権をとり,マルコスをハワイに亡命させた(〈二月革命〉あるいは〈ピープル・パワー革命〉).

この経過のなかで就任したアキノ大統領は就任後,〈暫定憲法〉を公布して立法権をひきつづき掌握し,任命した憲法制定委員会に新憲法起草を急がせた.1987年2月の国民投票で成立した新憲法は,アメリカ型大統領制,二院制議会など政治制度の上では1935年憲法体制への回帰であるが,大統領の権限の縮小,大統領・議員の任期制限(大統領は1期6年)などマルコス色の払拭と独裁再発防止の規定,国民の保護や基本的人権の保障の規定などピープル・パワーに配慮した側面も目立つ.

長期独裁政権,特にその末期の政治・経済の混乱の後を受けたアキノ政権の課題は,①和平と和解,②経済の再建,③民主主義の復活であった.このうちわずかに達成されたのは③だけであった.共産系武装反乱勢力との和平,国軍の旧悪追及を急いだあまり,国軍改革派分子による4年間で7件のクーデタを招き,政情不安は続いた.国際的支援体制のもと始動していた経済回復も水を差されて頓挫した.

これらの課題を最終的に完成させたのは,92年5月に新憲法下で選出された初の大統領フィデル・ラモスFidel Ramosである.ラモスは,就任するや武装反乱諸勢力への恩赦と共産党合法化の方針を表明,95年に国軍改革派との,96年にイスラムのモロ民族解放戦線との和平にこぎつけた.共産系の民族民主戦線―新人民軍との長い交渉は妥結に至っていないが,共産勢力自体は93年に分裂し,勢力は著しく減退した.電力危機の克服など着実な経済運営と対外開放化政策を好感した外資の急流入により,94年以来経済も好転し,2000年に周辺諸国の水準に追いつくことを国家目標に掲げるに至っている.

ラモス政権の末期は,アジア通貨危機の大

波を受けて経済の回復基調が一転し，ペソの大幅切下げ，金融・財政の引締めと投資の減退により，経済成長は急減速した．ただ，他のアジア諸国にくらべ相対的に軽症で済んだのは，回復途上にあって景気過熱から免れ，アキノ期以来行われてきた経済改革がむしろ他に先行していたことがあずかっている．

98年5月の大統領選挙では，野党の推すエストラーダJoseph Estrada前副大統領が圧勝した．経済危機さなかの政権担当者として俳優出身ということに危惧も多い中で，エストラーダは，前政権の〈経済改革の継続〉とともに，〈大衆の味方〉を強調して貧富の格差の是正や農業の近代化，つまり積み残された課題への取組みを打ち出している．

新憲法の一つの柱，地方分権化は，1991年地方自治法に結実した．地方行政組織は95年現在，76州，60特別市と1543郡，4万1908バランガイ(村)からなっている．76州は行政上16地方(コルディリェーラ，ムスリム・ミンダナオの2自治地方を含む)として括られることが多い．

[外交] 対米関係に過度に傾斜していた対外関係は，マルコス政権以来多角化を強めている．1974年のラウレル・ラングレー通商協定の満期失効は対米〈特殊関係〉脱却の第一歩であったが，軍事関係でも91年，上院はついに在フィリピンの米海・空軍基地の存続を否決した．米軍は翌年11月撤退を完了し，米比間に残るのは1951年調印の相互防衛条約だけとなった．アメリカは経済関係では，往復の貿易額，直接投資残高において優位を保つが，日本に輸入額，年次投資額，とりわけ政府開発援助(ODA)額で首位の座を譲っている．ただし近年の対外関係多角化の力点はアジア，特にASEANにおかれている．

米軍撤退は，国内治安主眼の貧弱な防衛力を対外防衛中心に再編する課題を提起した．95年の国軍近代化法の制定により十五ヵ年計画，当面は五ヵ年計画で兵力を10万人に縮小する一方，装備の近代化を急ぐ構えである．

【経済，産業】 1人当り国民総生産1160ドル(1996)は中所得国のうちでも低位に属し，その実質成長率も世界有数の高い人口増加率(90年代の年平均2.3%)も災いして1990-96年の年平均1.0%と鈍い．しかも富の分配は，全世帯の36%が絶対的貧困層に属する状態である(1994)．

労働人口の半数近くが従事する農業では，食糧作物である米・トウモロコシが全収穫面積1251万haの52%を占める．輸出作物ではココナッツの比重が同25%と高く，バナナ，サトウキビ，コーヒー，アバカ(マニラ麻)と続く(1995)．1960年代後半以降の高収量品種の導入で米が一時自給状態となったが，80年代半ばから輸入がふたたび常態化している．懸案の土地改革は，マルコス政権，アキノ政権とも初期には大々的に取り上げたが，持続的な推進力に欠けた．とりわけ膨大な土地なし農業労働者の問題は深刻である．

工業では，独立後，輸入・為替管理，奨励的税制，割高の為替レートなど一連の保護政策が奏功して輸入代替工業化が進展し，1960年代初頭ではアジアをリードしていたが，その後は停滞的傾向を強めた．国内保護政策の結果，雇用節約，国内需要依存，低生産性，資源浪費が体質化したのである．マルコス期に工業化政策の転換が図られ，輸出多角化に若干の成果を見たが，保護主義は基本的に改まらなかった．やっと80年の危機に至って経済構造調整計画が始まり，特にラモス政権になって，経済の自由化，規制緩和，公営企業の民営化などの効果が現れ，経済成長の加速化に寄与している．

サービス業は特に就業構造の上から注目される．都市での工業の雇用吸収力の弱さが，農村から排出された過剰労働力をサービス業に向かわせるのであるが，その実体は多くは都市における各種雑業であり，偽装された不完全就業と見られる．雇用面で特記すべきこととして，全世界的に出稼ぎ労働者が展開し(1995年推計で海外在住の移民と出稼ぎ労働者計600万人)，安全弁となっている．

1990年代に入り外国直接投資の急流入によって輸出の伸びと構成の変化が著しい．95年現在，輸出の77%が非在来の工業製品(半導体など電気・電子製品が43%，衣料品が15%)であり，在来品は最大のココナッツ製品でも6%にすぎない．これは反面，中間財，資本財の輸入急増を招き貿易赤字を拡大させているが，出稼ぎ労働者を中心とした海外からの送金は94年に約60億ドルとも推定され，貿易赤字の大半を埋めている．

浅野 幸穂

資料 02-03

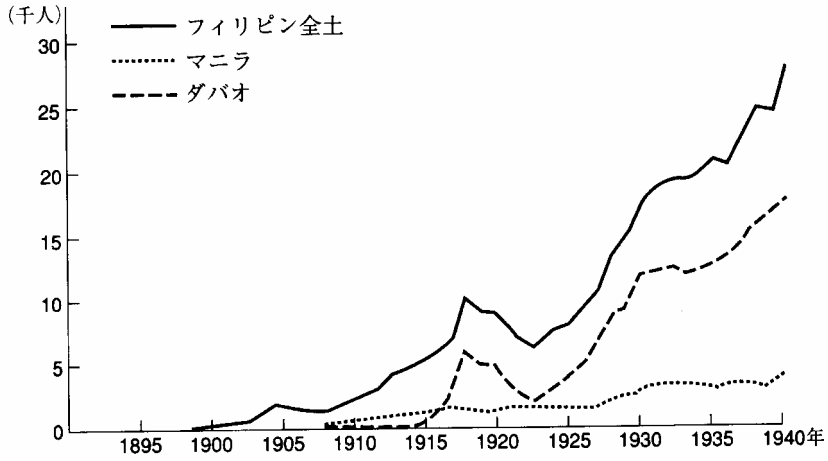


図1　在フィリピン日本人人口

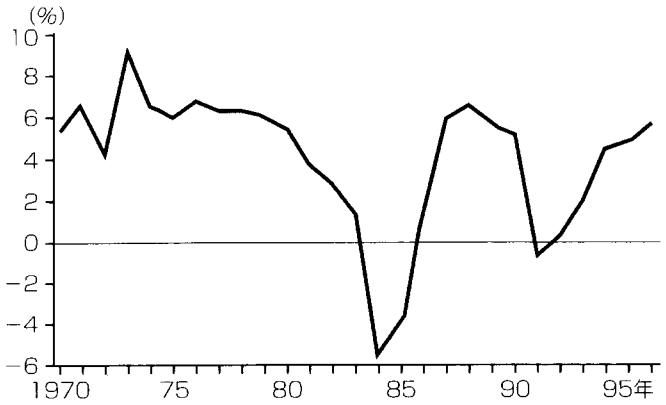
表21　フィリピン輸出農産物の比重と推移　　単位：US$ 1,000,000

	輸出総計	砂　糖	アバカ麻,綱	ココナツ製品	タバコ	四物産の計
1873-77年 平均	18.7	9.3 49 %	4.5 24 %	(a)	2.3 12.5%	16.1 86 %
1890-94年 平均	20.1	7.3 36.5%	7.9 39 %	(b) 0.6 3 %	2.2 11 %	18 90 %
1908-12年 平均	38.7	7.1 18.5%	16.6 43 %	(c) 9.6 25 %	(d)3.6 9.0%	36.9 95.5%
1933-37年 平均	120.0	56.5 47 %	14.2 12 %	29.9 25 %	(e)5.0 4 %	105.6 88 %
1948-50年 平均	301.5	37.3 12.5%	33.5 11 %	200.5 66.5%	1.3 0.5%	272.6 90 %

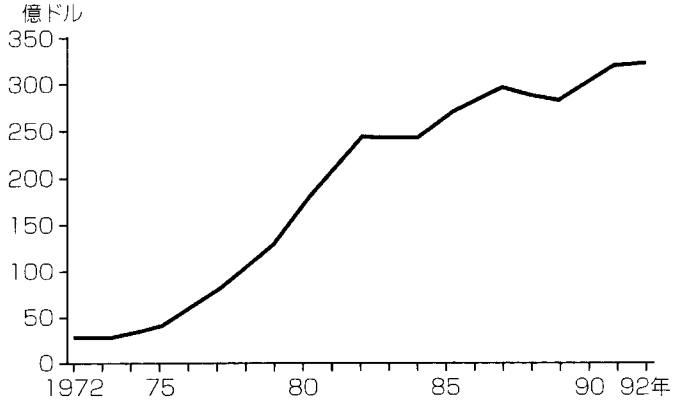
(a) この時期，四番目の輸出物産はコーヒーで全輸出の6％
(b) 1890，1892-94年の平均
(c) コプラのみ
(d) 1908-11年の平均
(e) 1937年のみ
出所：Norman G. Owen et al, *Compadre Colonialism, Philippine-American Relations=1898-1946,* Michigan Papers on South & Southeast Asia, No.3, Univ. of Michigan, Ann Arbor.

年	貧困ライン(ペソ)	貧困層人口	人口比(%)
1988	4,777	25,005,345	45.5
1991	7,350	29,373,747	46.5

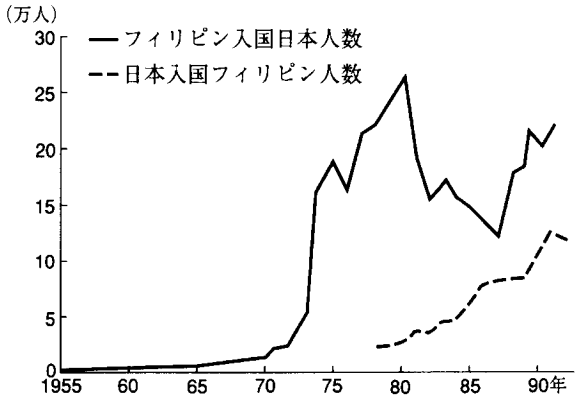
フィリピンの貧困ライン(年国民所得)と貧困層人口比



フィリピンの経済成長率(GNP)(1970～96年)



フィリピンの対外債務残高(1972～92年)



出典：「出入国年報」「フィリピン統計年報」による

図3　入国日本人・フィリピン人数

表1　貿易にみる対米・対日依存度（単位：百万ドル）

	輸出			輸入		
	総額	アメリカ(%)	日本(%)	総額	アメリカ(%)	日本(%)
1950	331	240(73)	22(7)	342	255(75)	14(4)
1955	401	240(60)	61(15)	548	356(65)	43(8)
1960	560	280(51)	132(24)	604	255(42)	159(26)
1965	768	349(45)	218(28)	808	274(34)	195(24)
1970	1,062	440(41)	421(40)	1,090	315(29)	345(32)
1975	2,994	664(22)	865(38)	3,459	754(22)	966(28)
1980	5,711	1,583(28)	1,511(26)	8,185	1,993(24)	1,625(20)
1985	4,614	1,658(36)	875(19)	5,351	1,344(25)	750(14)
1990	8,171	3,104(38)	1,622(20)	12,993	2,538(20)	2,397(18)
1995	17,447	6,160(32)	2,747(16)	26,538	5,014(19)	5,957(22)

（*Philippine Statistical Yearbook* および『通商白書』による）

バナナ･ボート

歌：ハリー・ベラフォンテ（1957 年）

ハリー･ベラフォンテ（本名ハロルド･ジョージ･ベラフォンテ･ジュニア）は1927年3月1日に米･ニューヨークのハーレムで、ジャマイカ人の母とウェスト･インディアンの父との間に生まれた。8歳の時から母の実家があったジャマイカ島で過ごし、14歳でニューヨークに戻った。その時はまだ進路が決まっておらず、知人にすすめられるままに芝居の世界に入り、アメリカン･ニグロ･シアターで役者として活動を始めた。しかし、これといった実績を残せず、ジャズ･クラブのマネージャー、モンティ･ケイの口添えもあって、1949年から歌を歌い始め、やがてこちらが“本職”になって行く。

1949年にジュビリー･レコードでレコーディングしたのが歌手の第1歩だったが、本格的な歌手活動をスタートさせたのは、52年にRCAに吹き込み初めてから。また、その直後には映画界からも声が掛かり、映画俳優としてのスタートも切った。歌手としてのメジャー･デビュー曲や代表曲に関してはこのCD収録曲と解説によってある程度把握して頂けるので、ここには映画主演作品名（日本の劇場公開作のみ）だけを列記しておこう。

54年「カルメン･ジョーンズ」
57年「日のあたる島」
59年「拳銃の報酬」
72年「ブラック･ライダー」
94年「プレタポルテ」
95年「ジャンクション」
96年「カンザス･シティ」

また、ハリーは政治や人権問題などにも積極的に参加、発言し、“硬派”のイメージが強いが、素顔は人懐こい穏やかな芸術家といったところだそうである。

1.バナナ･ボート

別に「ディ･オー」の曲名を持つハリー売出しの曲。ジャマイカに伝わるバナナを船に積み込む労働者のワーク･ソングで、ハリーの歌は1957年に全米ヒット･チャートの5位まで上がった。日本でも浜村美智子が歌い、大ブームになった。

DAY O

＊＊＊
Day-o, day-o
Daylight come and me wanna go home
Day, me say day, me say day
Me say day, me say day, me say day-o
Daylight come and me wanna go home

Work all night and I drink the rum
Daylight come and me wanna go home
Stack banana till the morning come
Daylight come and me wanna go home

＊＊
Come Mr.Tally Man, tally me banana
Daylight come and me wanna go home
Come Mr.Tally Man, tally me banana
Daylight come and me wanna go home

＊
Six foot, seven foot, eight foot bunch
Daylight come and me wanna go home
Six foot, seven foot, eight foot bunch
Daylight come and me wanna go home
Day, me say day-o
Daylight come and me wanna go home
Day, me say day, me say day
Me say day, me say day, me say day
Daylight come and me wanna go home
A beautiful bunch of ripe banana
Daylight come and me wanna go home
Hide the deadly black tarantula
Daylight come and me wanna go home

＊Repeat
＊＊Repeat
＊＊＊Repeat

資料02-04

ネグロス島全図

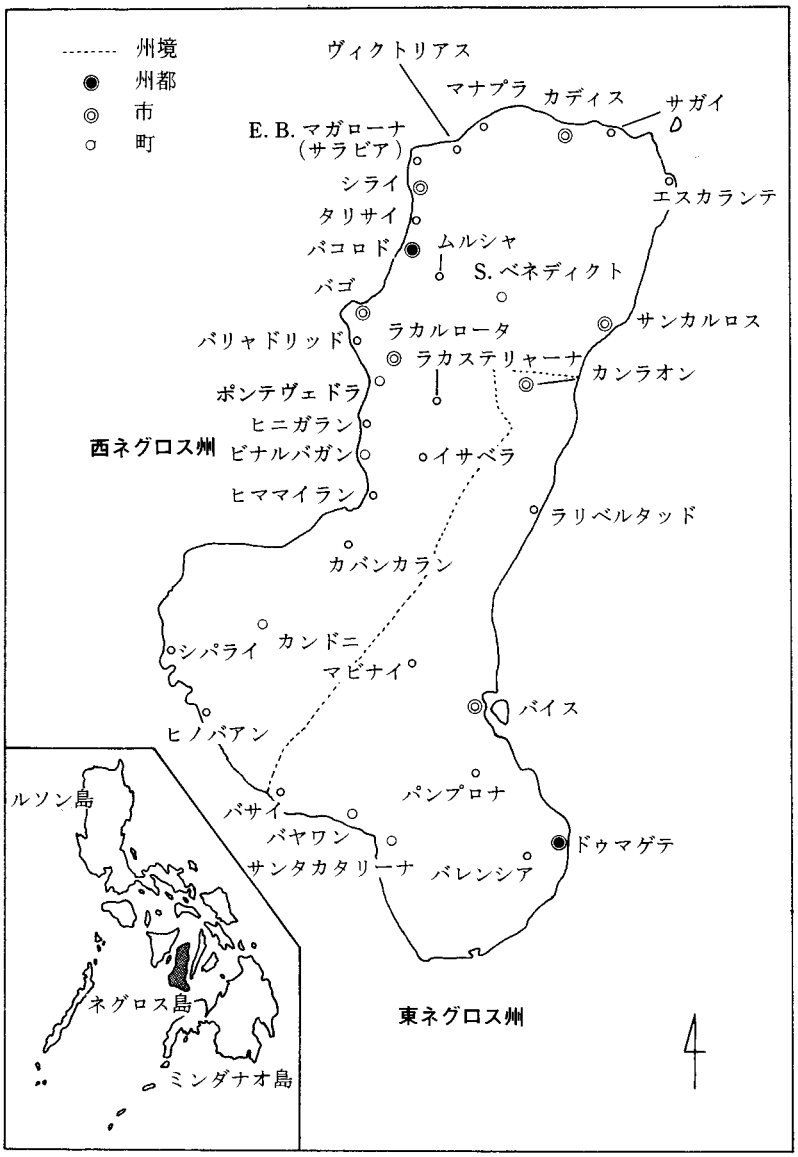


表1－15　西ビサヤ地方の砂糖きび労働者の賃金水準の推移（1975-81年）

年　度	名目賃金（当年価格）	実質賃金（1972年固定価格）
1975	8.14	4.51
1976	7.39	3.88
1977	9.34	4.46
1978	9.45	4.31
1979	—	—
1980	10.00	3.33
1981	10.00	3.00

出所：Aguilar, *The Making of Cane Sugar...*, p. 35.

表1－5　西ネグロス州の砂糖きび収穫面積と砂糖（粗糖）生産量
（1974／75-86／87作物年度）
（単位：ha，メートル・トン，指数は1975／76を100）

作物年度	砂糖きび収穫面積（指数）	砂糖生産量（指数）
1974／75	235,673 (90.3)	1,295,206 (88.8)
1975／76	260,935 (100.0)	1,458,877 (100.0)
1976／77	243,151 (93.2)	1,505,666 (103.2)
1977／78	225,672 (86.5)	1,344,246 (92.1)
1978／79	192,266 (73.7)	1,242,173 (85.1)
1979／80	189,733 (72.7)	1,154,199 (79.1)
1980／81	188,572 (72.3)	1,139,348 (78.1)
1981／82	185,572 (71.1)	1,236,721 (84.8)
1982／83	182,873 (70.1)	1,172,181 (80.3)
1983／84	190,387 (73.0)	1,168,513 (80.1)
1984／85	178,960 (68.6)	825,008 (56.6)
1985／86	140,814 (54.0)	760,744 (52.1)
1986／87	132,237 (50.7)	657,432 (45.1)

出所：1974／75-1982／83作物年度：Philippine Sugar Commission, *Statistical Series on Sugar,* Vol. 1, 1982 and unpublished data, Filomeno V. Aguilar, Jr., *The Making of Cane Sugar: Poverty, Crisis and Change in Negros Occidental,* Bacolod City, La Salle Social Research Center, 1984, p. 54より重引；1983／84-1984／85作物年度：*Annual Synopsis of Factory Performance Data CY1983／84, 1984／85,* Quezon City, Philippine Sugar Commission, 1984, 1985; 1985／86-1986／87作物年度：Sugar Regulatory Administration, Bacolod City (unpublished data).

表1－9　西ネグロス州の砂糖きび農場数（1975／76，1980／81作物年度）

経営規模（ha）	1975／76		1980／81	
	農場数（%）	経営面積合計にたいする比率（%）	農場数（%）	経営面積合計にたいする比率（%）
- 5	3,156 (31.4)	3.8	3,023 (36.8)	5.1
5.01- 10	2,112 (21.0)	6.8	1,499 (18.3)	6.3
10.01- 25	2,244 (22.3)	15.6	1,659 (20.2)	15.1[1)]
25.01- 50	1,264 (12.6)	19.6	1,052 (12.8)	20.6
50.01-100	823 (8.2)	23.6	683 (8.3)	25.8
100.01-	459 (4.5)	30.6	299 (3.6)	27.1
合　計	10,058 (100.0)	100.0	8,215 (100.0)	100.0

注：1）原表の数値を修正。
出所：Philippine Sugar Commission, *Statistical Series on Sugar,* Vol. 1, 1982, Aguilar, *The Making of Cane Sugar...,* pp. 49-50より重引。

表1－14　砂糖きび労働者の年間家計支出額（1982年）

項　目	支出額（ペソ，%）
食　費	4,785.60 (89.2)
教育費	200.00 (3.7)
被服費	180.00 (3.4)
その他	200.00 (3.7)
合　計	5,365.60 (100.0)

出所：Lopez-Gonzaga, *Mechanization and Labor...,* p. 38.

砂糖きびプランテーションに起こった飢餓から
自立を目指してバナナ民衆交易10年

かつてはフィリピンの主要輸出産品だった砂糖、その6割を生産していた「砂糖の島」ネグロス島。島全体が砂糖産業に依存することで成り立ってきた。ところが、1980年代の国際的な砂糖価格の暴落が引き金となり、ネグロスの砂糖産業は崩壊した。島民の2～3%の地主が支配する砂糖農園で働いていた多くの農園労働者が仕事を失い、島全体が貧困と飢餓に襲われた。緑豊かなネグロス島に「飢餓」が起こったのである。

1986年、「ネグロスの子どもたちに生きる力を！」を合い言葉に日本ネグロス・キャンペーン委員会が設立された。「顔と顔の見える関係」を基本に、ネグロスの人々の自立を応援する模索が始まった。食料・医薬品配布から、島民自らの食糧生産の支援へと重点が移されたのはまもなくであった。

さらに対等な関係でお互いが助け合い、そして共に生きる地球社会づくりをめざした経済活動「バナナ民衆交易」が開始され、オルター・トレード・ジャパン（ＡＴＪ）が設立された。89年2月、神戸港に10トンの無農薬栽培・ポストハーベストフリーのバランゴンバナナが陸揚げされた。民衆交易によるフィリピン・ネグロス島産バナナの第一便であった。熱度や温度管理の失敗から黒く痛んでしまうバナナが続出した。山の貧しい農民たちが行ったこともない、遠い日本へのバナナ輸出（最初は気が遠くなるような話だったと言う）にゼロから取りくんだのである。時間に間に合わなかったり、黒く痛んでしまったりという試行錯誤を繰り返した。日本の消費者は辛抱強くつきあい、ネグロスの人々は何度も挑戦した。そうして創られた「バナナ民衆交易」である。

生産者の自立した農業と地域づくりを応援し、消費者自身は安全で美味しいバナナを手にするという相互扶助の「バナナ民衆交易」。モノの流通のスタイルを変えることで南と北の新しいつながりを創りたいという夢を賭けた「バナナ民衆交易」。台風被害や連作障害とさまざまな困難を乗り越えて、今年10年めを迎えた。

1998年10月

オルター・トレード・ジャパン（ＡＴＪ）
東京都新宿区大久保2-4-15 ｻﾝﾗｲｽﾞ新宿3Ｆ
tel:03-5273-8163 fax:03-5273-8162

資料02-05

日本の輸入食品上位 20 位　（単位：100 万ドル）

1985 年		1999 年	
とうもろこし	1,908	豚肉	2,857
エビ	1,431	エビ	2,706
小麦	973	たばこ	2,701
コーヒー	747	牛肉	2,434
豚肉	703	まぐろ	2,046
こうりゃん	572	とうもろこし	1,883
さけ・ます	493	アルコール飲料	1,811
たばこ	465	小麦	1,074
牛肉	463	家禽肉	984
まぐろ	314	たら	965
バナナ	296	コーヒー	964
いか	272	かに	928
かんきつ類	268	さけ	857
酪農品・鶏卵	241	冷凍野菜	842
たこ	237	肉類調整品	717
大麦・はだか麦	217	牛舌・肝臓など	717
粗糖	201	乳製品	698
ココア	153	うなぎ	672
かに	139	犬猫用飼料	656
		（バナナ	548）
食料品計	15,547（12.0%）		44,309（14.3%）
輸入総計	129,539（100%）		311,246（100%）

出所：通産省『通商白書』1986 年および 2000 年.

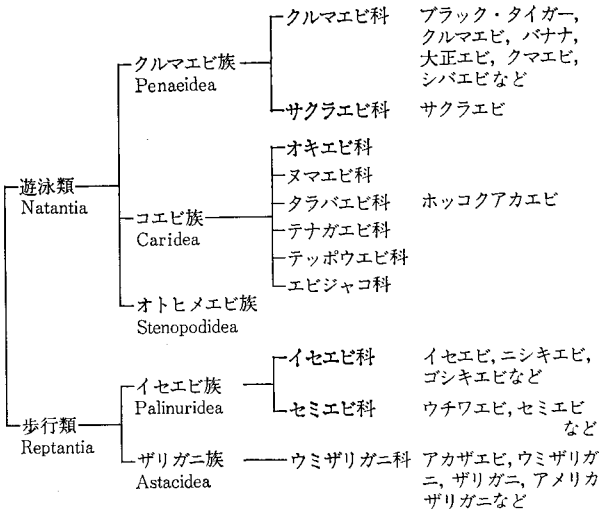
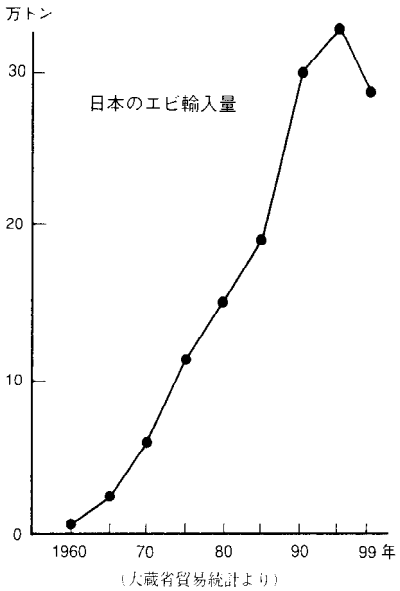


図 5　エビ類(狭義)の分類表



（大蔵省貿易統計より）

表 1－2　冷凍エビの輸出入上位10カ国・地域（1988年）

輸入			輸出		
国（地域）	量(トン)　(%)	金額（100万ドル）	国（地域）	量(トン)　(%)	金額（100万ドル）
日本	258,711(32.1)	2,559(42.1)	中国	123,953(15.5)	818(14.2)
アメリカ	206,512(25.6)	1,581(26.0)	インド	56,829(7.1)	339(5.9)
香港	68,034(8.4)	354(5.8)	香港	55,120(6.9)	392(6.8)
スペイン	51,283(6.4)	300(4.9)	インドネシア	53,002(6.6)	486(8.4)
デンマーク	42,147(5.2)	199(3.3)	エクアドル	49,746(6.2)	341(5.9)
フランス	31,684(3.9)	227(3.7)	タイ	42,841(5.4)	346(6.0)
カナダ	14,069(1.7)	118(1.9)	デンマーク	40,176(5.0)	217(3.8)
イタリア	21,827(2.7)	178(2.9)	グリーンランド	29,821(3.7)	161(2.8)
イギリス	19,944(2.4)	119(1.9)	フィリピン	23,536(3.0)	250(4.3)
シンガポール	22,444(2.8)	76(1.3)	メキシコ	21,071(2.6)	277(4.8)
第一世界	769,412(95.5)	5,977(91.2)	第三世界	662,906(83.1)	4,836(83.9)
世　界	805,374(100)	6,077(100)	世　界	797,479(100)	5,766(100)

（出所）　FAO, *FAO Yearbook 1988: Fishery Statistics.*

表１－４　エビの漁獲量，輸入量，１人あたり消費量

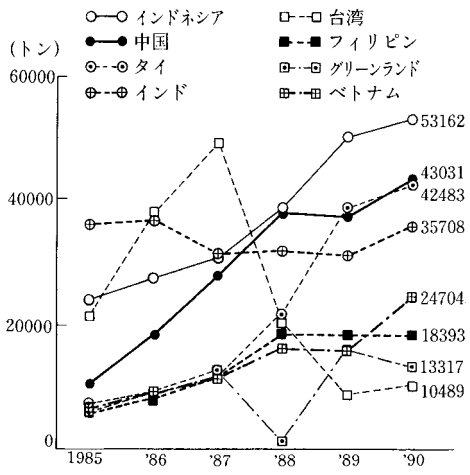
	国内生産量（有頭）	輸入量（有頭換算）(1)	総供給量（有頭換算）	１人あたり消費量(2)
	t	t　　t	t	g
1954～56	50,678	7 (　11)	50,689	568
57～59	55,402	970 (　1,455)	56,857	619
60～62	72,291	2,775 (　4,163)	76,454	811
63～65	78,425	16,602 (　24,903)	103,328	1,057
66～68	66,648	38,609 (　57,913)	124,561	1,244
69～71	55,424	61,635 (　92,453)	147,877	1,426
72～74	66,502	102,968 (154,452)	220,954	2,025
75～77	61,262	120,595 (180,893)	242,155	2,141
78～80	54,281	148,630 (222,445)	277,226	2,387
81～83	58,895	155,416 (230,874)	289,769	2,460
84～86	54,084	188,266 (282,399)	336,484	2,780
87～89	48,018	255,849 (383,773)	431,791	3,543
アメリカ（1988年）	163,821	206,521 (309,782)	473,603	1,943
中　　国（〃）	583,592	△123,209 (△184,814)	398,928	370
イ　ン　ド（〃）	236,596	△ 56,829 (△ 85,244)	151,352	190
タ　　イ（〃）	173,990	△ 42,325 (△ 63,488)	110,502	2,060
インドネシア（〃）	189,250	△ 53,002 (△ 79,503)	109,747	640
フィリピン（〃）	79,644	△ 23,536 (△ 35,304)	44,340	770

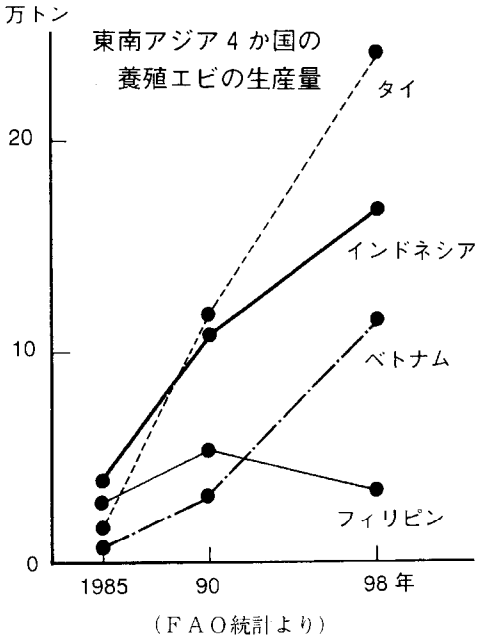
（出所）　FAO, *Yearbook of Fishery Statistics 1988.*, 農水省『漁業・養殖等生産統計年報』，大蔵省『貿易統計年報』など。

(1)　日本の輸出量はわずか（2050～4000トン）であるので，ここでは除外して計算した。アメリカ以下の国は（輸出量－輸入量）で計算してある。△はマイナス。輸出入は無頭でされることが多いので，有頭の換算は一律に輸出－輸入の差額を1.5倍した。

(2)　したがって１人あたり消費量は有頭重量を総人口で除した数値である。

図１－１　冷凍エビの輸入量（1985～90年）





（ＦＡＯ統計より）

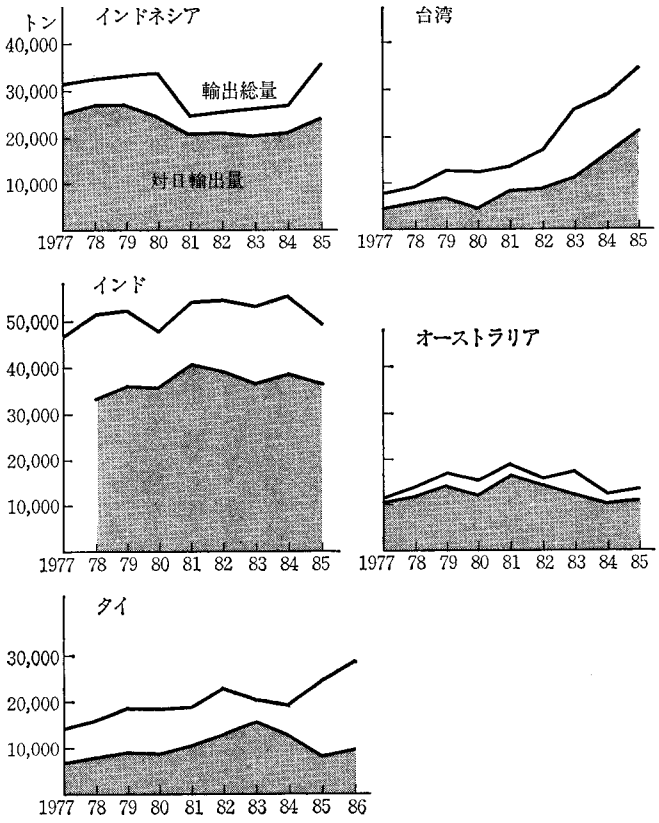


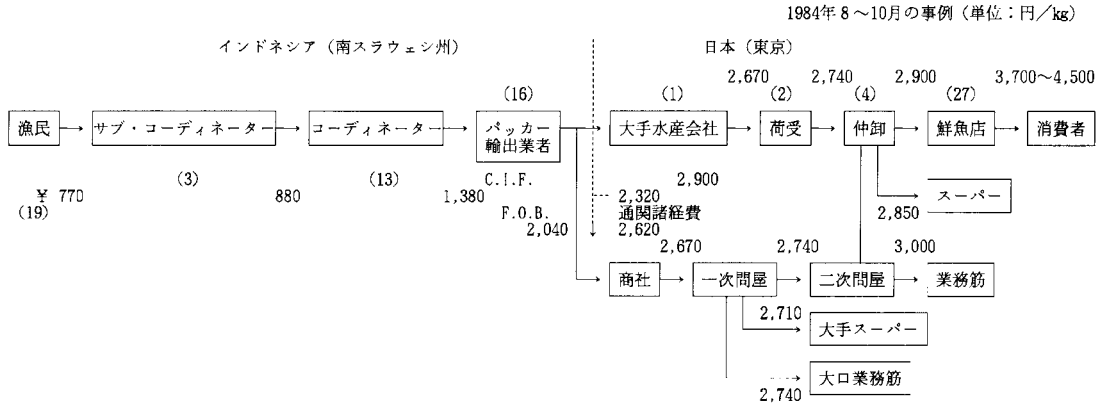
図14　日本への主要エビ輸出国のエビ輸出量

表5　インドネシアの冷凍エビ・パッカー
（対日輸出量上位16社，1981年）

企業名	所在地	輸出量（トン）	日本側出資企業
Red Ribbon	北スマトラ	592	
Dharma Mulia	〃	988	
Wirontono	ジャカルタ	1,050	
Pumar	〃	1,021	
*Central Java Marine Products	中部ジャワ	1,283	住友商事
Cejaco	〃	783	
Sekar Bumi	東部ジャワ	644	
*Misaja Mitra	カリマンタン	1,548	東邦水産，東邦物産
*Mitra Kartika Sejati	南スラウェシ	583	
Bonecom	〃	918	
*Mina Kartika	マルク	890	極洋
*Toyo Fishing Industry	〃	779	トーメン，宝幸水産
*West Irian Fishing Industry	イリアン・ジャヤ	1,325	日水，三菱商事，ホウスイ
*Alfa Kurnia Fish Enterprise	〃	606	日魯，三菱商事
*Irian Marine Product Development	〃	802	日水，ホウスイ，日商岩井
*Dwi Bina Utama	〃	643	徳島水産，ニチメン
その他の日系合弁企業			
*Nusantara Fishery	マルク	390	大洋，三井物産
*Minaraya Aceh Fishing Industry	アチェ	…	海外殖産

*印は日系合弁企業
（出所）　Direktorat Bina Produksi, Direktorat Jenderal Perikanan, *Laporan Ekspor Produk Perikanan Indonesia, 1981.* などによる．

図1－4　エビの価格形成（インドネシア・ホワイト26／30サイズ(1)）



（注）　(1)　サイズは国際規格で定められており，1ポンド（453.59g）あたりの無頭のエビの尾数を示す。26／30というのは1ポンドあたり26～30尾のサイズで，したがって1尾の重量が15～18gの中型のエビである。
(2)　（　）内の数字は消費者価格を4,000円／kgとし，それを100とした場合の各段階の取り分，経費を含む。

資料02-06

かっぱえびせんの材料

おいしさの秘密は、旬のえび。

■こんな種類のえびを原料にしています。

瀬戸内海や、中国でよく水揚げされる体長８～１０ｃｍほどのクルマエビ科に属する天然えびや、北洋で水揚げされる天然のホッコクアカエビ（通称甘えび）を丸ごと使用しています。

クルマエビ科
■キシエビ
体長：約８cm

クルマエビ科
■アカエビ
体長：約１２cm

クルマエビ科
■サルエビ
体長：約１２cm

■エビの分類

長尾類

- 遊泳類
  - クルマエビ類
    体長１５cm位までを Shrimp（シュリンプ）
    体長３０cm位までを Prawn（プラウン）
    とも呼ぶ。
- 歩行類
  - ザリガニ類
    重さ１kg以上になる Lobster（ロブスター）
  - イセエビ類

瀬戸内海のえびとり名人のお話

瀬戸内海のえびとり名人たちが集まった“カルビー船団”。旬えびの時期、通称えびこぎ船と呼ばれる小型底引網船により新鮮なえびが漁獲されます。
えびは船上の氷温槽から陸揚げの後、マイナス 30 度以下で漁獲後４時間で急速冷凍され、鮮度が保たれます。
その後、新鮮なまま製造工場へと運ばれていきます。

網はえびの大きさに合わせた独特のものを使用。成長前のえびが掛からないように工夫されています。

今日も大漁！
活気あふれる漁港の朝。

陸揚げされたえびは漁港ですぐに氷詰めにされます。

カップヌードルのひみつ

原材料編

カップヌードルの原材料は世界中から集められています。

めんの原料となる小麦は北米・オーストラリア産。
日本の製粉会社が北米・オーストラリアから小麦を買い製粉した小麦粉を使っています。

めんをフライする油は 100%植物油を使用、日本の製油会社がマレーシアから輸入し、精製した油脂を使っています。

国内産の醤油にマレーシア産のペパーなどを加えた香味豊かなスープです。

え び　・・・　主にインド洋の新鮮で品質のよいエビを調理してフリーズドライして使っています。

お 肉　・・・　ぶた肉。日本国内産および北米産を使っています。

たまご　・・・　北米産および国内産を使っています。

ね ぎ　・・・　中国にある日清食品の工場で作っています。

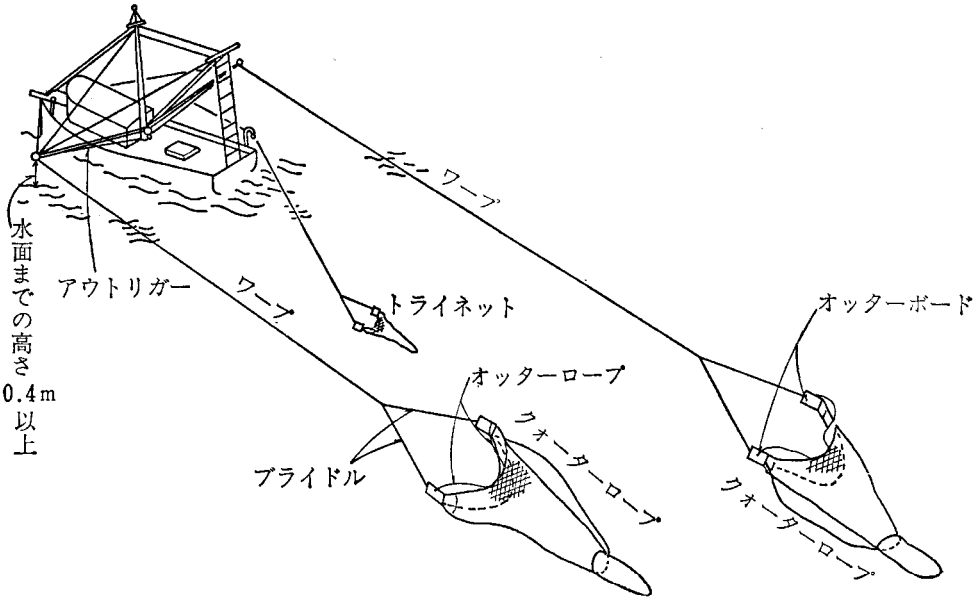


図 5.2　曳網中のエビトロールの見取図

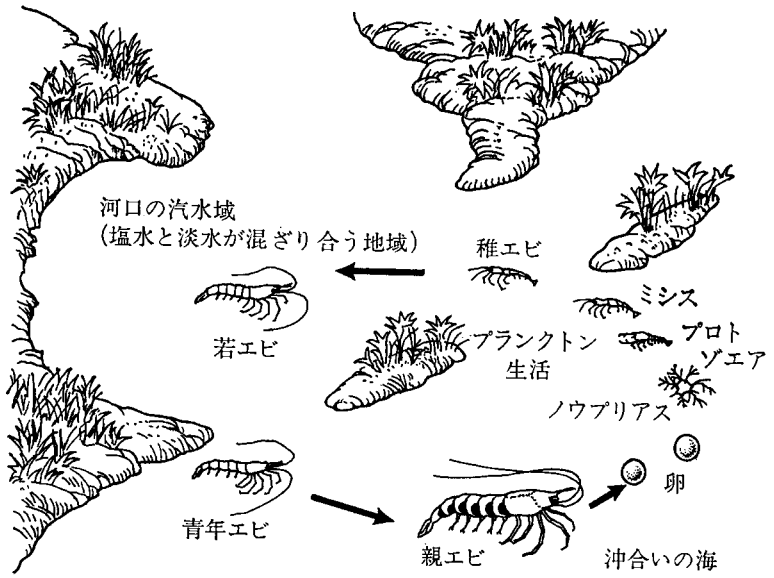


図4　クルマエビ属の生活史
(出所)　Mujiman, Ahmad, *Budidaya Udang Putih*, Jakarta : Penebar Swadaya, 1982 および酒向昇『えび――知識とノウハウ』水産社，1979 を参考に作成.

資料02-07

マングローブの分布（1980 年）

地域	面積（単位：1000ha）	成育種数
アジア	8,409（ 46%）	67
アメリカ	6,337（ 35%）	14
アフリカ	3,402（ 19%）	24
計	18,148（100%）	

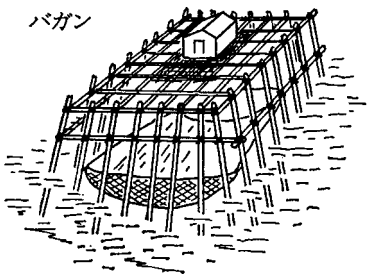
国　　名	面積（単位：1000ha）
①インドネシア	2,500
②ミャンマー	812
③マレーシア	674
④パプアニューギニア	553
⑤バングラデッシュ	450
⑥サバ	350
⑦パキスタン	345
⑧ベトナム	320
⑨タイ	287
⑩フィリピン	240

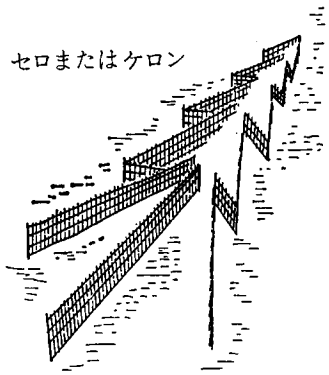
タイのマングローブ林面積

年	面積（単位：ha）
1961	367,900
1975	312,732
1979	287,308
1986	196,437
1989	180,559
1991	173,821
1993	166,682

タイのエビ養殖池面積

年	面積（ha）
1987	44,770
1988	54,778
1989	71,645
1990	64,606
1991	75,332





「ざわわ」の希い　寺島尚彦（「さとうきび畑」作者）

このたび、森山良子さんが期するところあって「さとうきび畑」のフル・ヴァージョンCDを新録音によって世に送りだすという。息の長い歌手として円熟味を増し、常に前進を怠らない彼女のこと、今回のレコーディングに発揮される新境地に、大きな期待と喝采を送りたい。こんな素晴らしい歌手に出逢えたこの歌は、本当に幸せである。

私が沖縄のさとうきび畑に初めて出会ったのは、1964年の6月、沖縄はまだ日本復帰前であった。摩文仁の丘に続く一面のさとうきび畑は私の背丈より高く、その中に埋もれるようにして歩く私に、戦跡案内をしてくれた人の言葉が天の声のように、ふりかかる・・・「あなたの歩いている土の中にまだたくさんの戦没者の遺骨が埋まったままになっています。」美しく広がっていた南国の青空はその瞬間モノクロームに一変し、ただ頭越しに轟然と吹きぬける風の音だけが耳をうち私は立ちすくんだ。その風の中に戦没者たちの怒号と嗚咽を私ははっきりと聞いたのである。この風の音を表現する言葉として“ざわわ”を考えついたとき、その日からすでに一年半が過ぎていた。筆舌に尽くせない地上戦の悲惨さを受けた沖縄を忘れないために、そして戦争を知らない世代の人たちにそれを伝えるために、66回の“ざわわ”をこの歌は必要とした。私が歩いたさとうきび畑はすでに無く、平和の礎の並ぶ平和祈念公園になっていた。偶然ではないような気もするが、なにか複雑な想いが胸をよぎる。

1969年、森山良子さんによって「さとうきび畑」の最初のレコーディングが行われた。しかもフル・ヴァージョンであった。全曲約十分を要するこの歌は、流行ることを拒否した歌といわれ、テレビでの放映は勿論、ラジオでさえ敬遠されてきた。森山さんは自分のレパートリーの中の大切な歌としてこの歌を加え、機会あるたびに演奏しながら戦争の無益さと平和の尊さを訴えつづけてきた。私としても感謝にたえない。この歌が必要でなくなる時が来ることを祈りながら、と彼女も云う。私も全く同感である。しかし地球のどこかで銃声の絶えたことはなく、今また想定外の脅威が世界を震撼させている。日本人として、沖縄を二度と絶対に戦争の火の粉にまみれさせてはならない。そのためにも報復という名の戦争は一刻も早く終らせなくては・・・

デビュー35年という森山さん、「さとうきび畑」も生まれて35年を迎える。戦争を少しでもなくすために、この歌声が新しくはばたいて欲しいと、ひたすら願っている私である。

（2001年11月5日 記）

さとうきび畑　作詞・作曲：寺島尚彦

1. ざわわ　ざわわ　ざわわ
広いさとうきび畑は
ざわわ　ざわわ　ざわわ
風が通りぬけるだけ
今日もみわたすかぎりに
緑の波がうねる
夏の陽ざしの中で

2. ざわわ　ざわわ　ざわわ
広いさとうきび畑は
ざわわ　ざわわ　ざわわ
風が通りぬけるだけ
むかし海の向こうから
いくさがやってきた
夏の陽ざしの中で

3. ざわわ　ざわわ　ざわわ
広いさとうきび畑は
ざわわ　ざわわ　ざわわ
風が通りぬけるだけ
あの日鉄の雨にうたれ
父は死んでいった
夏の陽ざしの中で

4. ざわわ　ざわわ　ざわわ
広いさとうきび畑は
ざわわ　ざわわ　ざわわ
風が通りぬけるだけ
そして私の生まれた日に
いくさの終わりがきた
夏の陽ざしの中で

5. ざわわ　ざわわ　ざわわ
広いさとうきび畑は
ざわわ　ざわわ　ざわわ
風が通りぬけるだけ
風の音にとぎれて消える
母の子守の唄
夏の陽ざしの中で

6. ざわわ　ざわわ　ざわわ
広いさとうきび畑は
ざわわ　ざわわ　ざわわ
風が通りぬけるだけ
知らないはずの父の手に
だかれた夢を見た
夏の陽ざしの中で

7. ざわわ　ざわわ　ざわわ
広いさとうきび畑は
ざわわ　ざわわ　ざわわ
風が通りぬけるだけ
父の声をさがしながら
たどる畑の道
夏の陽ざしの中で

8. ざわわ　ざわわ　ざわわ
広いさとうきび畑は
ざわわ　ざわわ　ざわわ
風が通りぬけるだけ
お父さんて呼んでみたい
お父さんどこにいるの
このまま緑の波に
おぼれてしまいそう
夏の陽ざしの中で

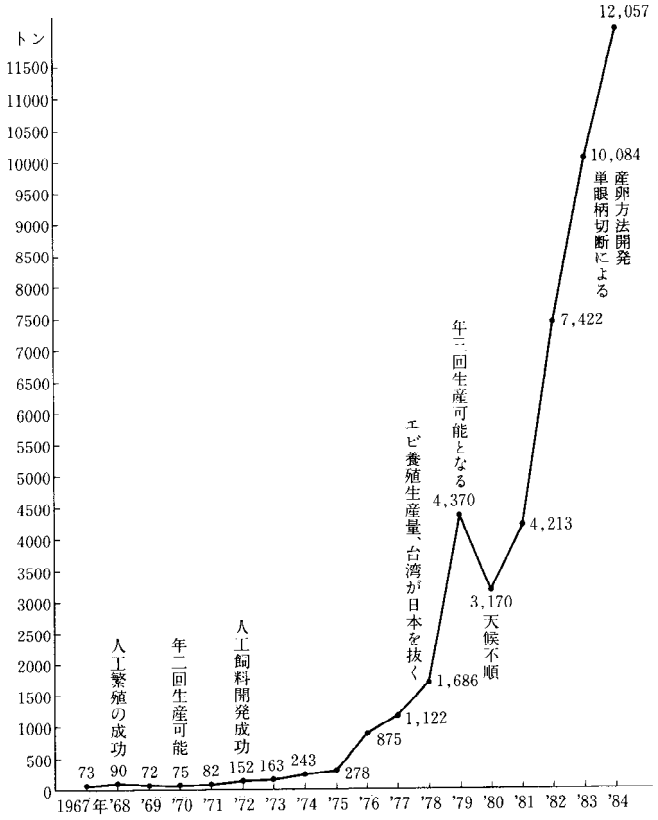
9. ざわわ　ざわわ　ざわわ
けれどさとうきび畑は
ざわわ　ざわわ　ざわわ
風が通りぬけるだけ
今日もみわたすかぎりに
緑の波がうねる
夏の陽ざしの中で

10. ざわわ　ざわわ　ざわわ
忘れられない悲しみが
ざわわ　ざわわ　ざわわ
波のように押し寄せる
風よ悲しみの歌を
海に返してほしい
夏の陽ざしの中で

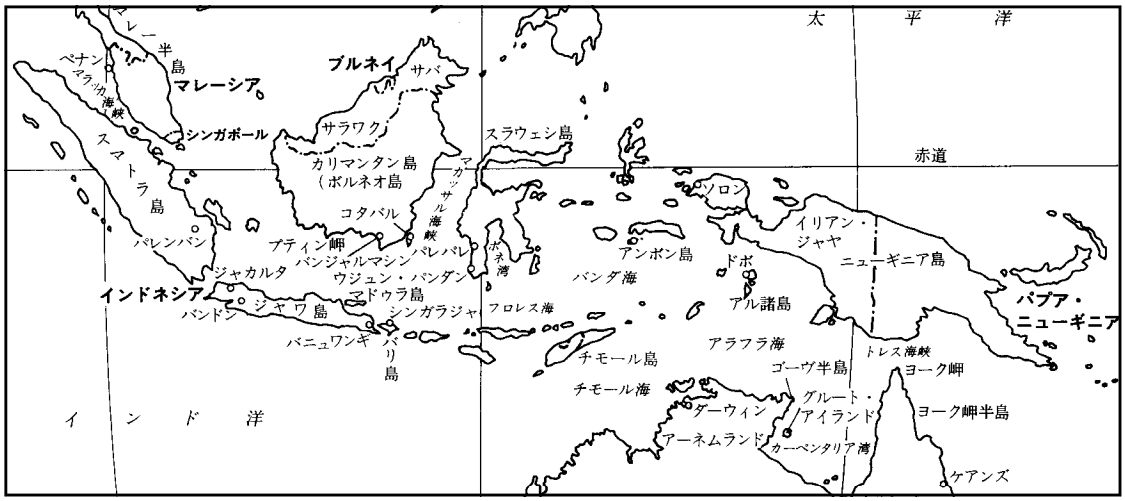
11. ざわわ　ざわわ　ざわわ
風に涙はかわいても
ざわわ　ざわわ　ざわわ
この悲しみは消えない

資料02-08

図８－１　ブラック・タイガー生産量の推移



（出所）　台湾省農林庁漁業局『中華民国台湾地区漁業年報』1985年５月、日本水産物輸入協会『台湾、香港及びフィリピンにおけるえび事情』1984年３月、より作成。



資料02-09

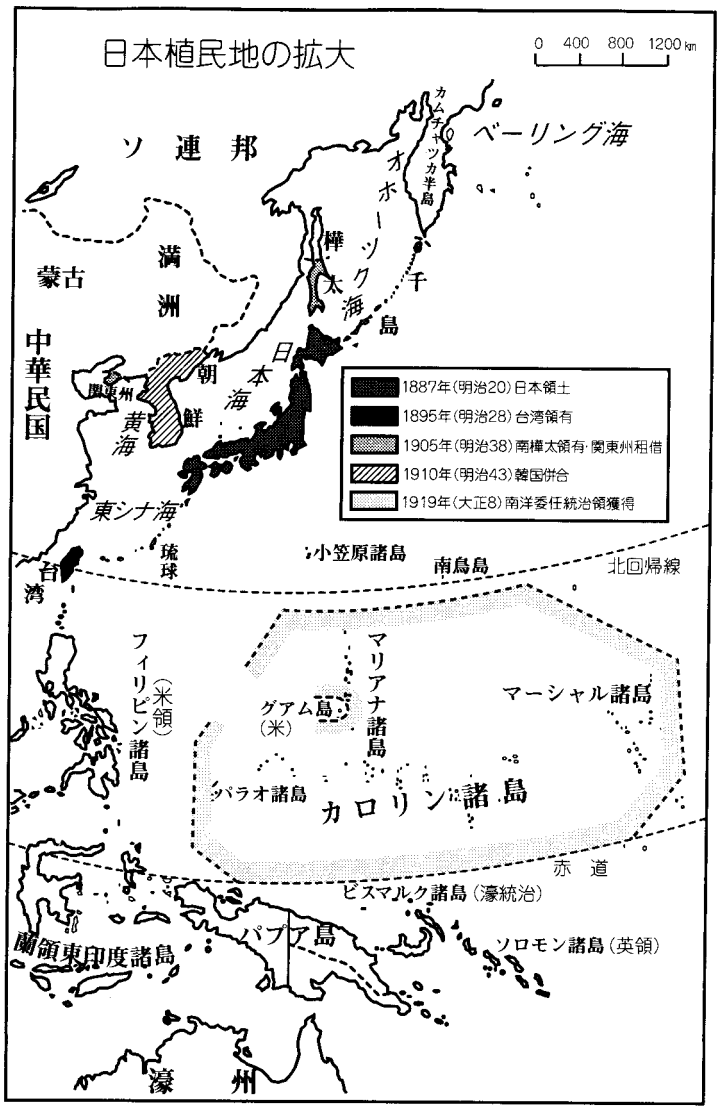
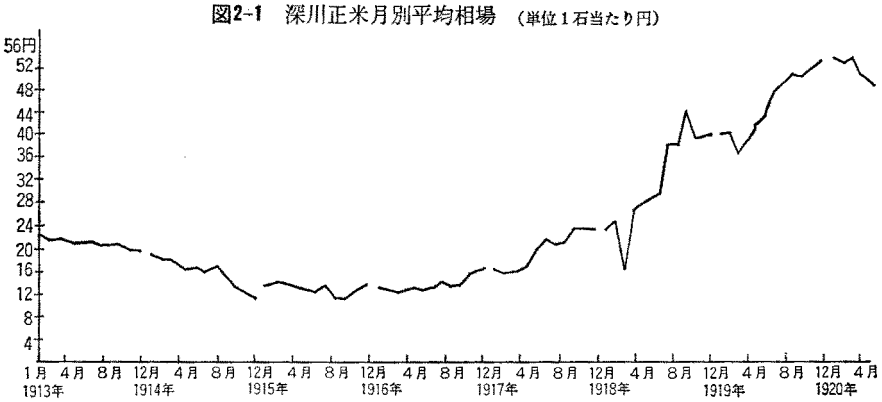


図2-1　深川正米月別平均相場　(単位1石当たり円)



出所）朝日新聞社『日本経済統計総観』（1930年）1165ページから作成。

表2-7　食糧品の輸出入　(単位　万円)

年次	輸　出	輸　入	差　引
1914	6,352 (497)	7,874 (2,482)	△1,522 (△1,985)
15	8,012 (968)	3,814 (489)	4,198 (479)
16	10,456 (1,120)	3,145 (309)	7,311 (811)
17	17,219 (1,466)	3,685 (601)	13,534 (815)
18	21,016 (832)	17,551 (8,976)	3,465 (△8,143)
19	14,966 (433)	35,132 (16,207)	△20,166 (△15,774)
20	14,228 (590)	22,240 (1,806)	△8,012 (△1,216)
21	7,968 (338)	20,833 (2,881)	△12,865 (△2,544)
22	10,440 (166)	29,024 (6,128)	△18,584 (△5,962)
23	9,109 (116)	25,155 (3,072)	△16,046 (△2,956)
24	11,330 (110)	34,808 (7,087)	△23,478 (△6,977)
25	14,732 (398)	39,201 (12,050)	△24,470 (△11,652)
26	14,730 (177)	35,028 (5,069)	△20,299 (△4,892)

出所）前掲『明治以降本邦主要経済統計』280～281ページ，および前掲『日本経済統計総観』242，258ページから作成。
備考）カッコ内の数字は米穀関係。

表3-2　「第一期計画」の実績　(単位　町歩，千円)

	着手面積			竣工面積			所要工事費			補助金		
	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率
1920年	11,000	5,700	52	—	—	—	2,200	2,140	97	500	500	100
21	23,100	22,590	98	9,200	4,500	49	6,770	9,780	144	1,577	2,260	143
22	28,400	16,450	58	21,200	20,750	98	9,770	12,208	125	2,251	2,900	129
23	33,700	15,150	45	26,600	16,690	63	11,770	9,036	77	2,671	2,200	82
24	33,700	19,810	59	32,400	14,650	45	12,890	11,283	88	2,926	2,700	92
25	35,100	17,800	51	33,700	19,450	58	13,430	13,502	101	3,062	3,305	108
計	165,000	97,500	59	123,100	76,040	62	56,830	57,949	102	12,987	13,865	107

出所）朝鮮総督府殖産局『朝鮮の土地改良事業』(1927年)，8～9ページから作成。

表3-5　「更新計画」における土地改良・農事改良の実績

(1)土地改良事業の実績　(単位　百町歩，万円，%)

		1926～29年累計			30～33年累計			34～37年累計			総計(26～37年累計)		
		計画①	実績②	②／①	計画③	実績④	④／③	計画⑤	実績⑥	⑥／⑤	計画⑦	実績⑧	⑧／⑦
施面行積	着手	1,082	1,140	105	1,134	401	35	1,284	79	6	3,500	1,620	46
	竣工	800	449	56	1,086	926	85	1,124	163	15	3,010	1,538	51
事業資金	国庫補助金	1,732	1,181	68	2,061	1,580	77	2,109	874	41	5,902	3,635	62
	企業者調達資金	1,003	342	34	502	941	187	536	423	79	2,040	1,706	84
	政府斡旋資金	5,417	4,228	78	6,334	3,569	56	6,426	571	9	18,176	8,368	46
	計	8,151	5,752	72	8,896	6,070	68	9,071	1,867	21	26,118	13,709	52

表3-10　朝鮮米の生産と輸移出量　（単位　石）

年平均	反当収量	生産高①	輸移出量②	②/①(%)	移出量③	輸出量④	③/②(%)	④/②(%)
1910～12	0.788 (89)	10,946,342 (81)	627,378 (31)	5.7	389,908 (25)	237,470 (53)	62.1	37.9
15～17	0.890 (100)	13,488,996 (100)	2,005,399 (100)	14.9	1,573,503 (100)	431,895 (100)	78.5	21.5
20～22	0.952 (107)	14,740,332 (109)	2,952,285 (147)	20.0	2,837,421 (180)	114,864 (27)	96.1	3.9
25～27	0.992 (111)	15,790,898 (117)	5,671,076 (283)	35.9	5,658,902 (360)	12,174 (3)	99.8	0.2
30～32	1.032 (116)	17,133,167 (127)	7,246,857 (361)	42.3	7,233,690 (460)	13,168 (3)	99.8	0.2

出所）反当収量・生産高については，朝鮮総督府編『昭和十年農業統計表』9～10ページ，輸移出量については，鮮米協会編『朝鮮米の進展』274～275ページから算出した。
備考）カッコ内の数字は1915～17年を100とする増加指数を示す。

表4-6　食糧消費量の変遷　（1人当年間消費量　単位　石）

年平均	米	大麦・裸麦	粟	豆類	その他	合計
15～18①	0.7027(35.6)	0.4182(21.2)	0.2843(14.4)	0.2615(13.2)	0.3099(15.7)	1.9766
21～24	0.6388(31.6)	0.4155(20.6)	0.3608(17.9)	0.2599(12.9)	0.3461(17.1)	2.0211
26～29	0.5109(28.1)	0.3952(21.8)	0.3665(20.2)	0.2315(12.7)	0.3122(17.2)	1.8163
31～34②	0.4401(26.7)	0.4160(25.2)	0.3146(19.1)	0.2057(12.5)	0.2723(16.5)	1.6487
②/①(%)	62.6	99.5	110.7	78.7	87.9	83.4

出所）朝鮮総督府農林局編『朝鮮米穀要覧』3，138～139ページから引用。
備考）カッコ内の数字は全体に占める割合（%）。

表3-11　輸移入米の日本米穀市場に占める割合　（単位　千石）

年平均	日本米生産高	日本米販売高	朝鮮米移入高	台湾米移入高	輸入高	総流通高
1910～13	49,707	27,339(89.3)	331 (1.1)	818 (2.7)	2,127 (6.9)	30,615
14～17	56,488	31,068(91.4)	1,342 (3.9)	755 (2.2)	840 (2.5)	34,005
18～21	58,477	32,162(83.6)	2,446 (6.4)	1,031 (2.7)	2,840 (7.4)	38,479
22～25	58,253	32,039(78.3)	4,015 (9.8)	1,569 (3.8)	3,307 (8.1)	40,930
26～29	58,889	32,389(75.1)	5,983(13.9)	2,425 (5.6)	2,335 (5.4)	43,132
30～33	63,328	34,830(75.6)	7,020(15.2)	3,215 (7.0)	1,002 (2.2)	46,067

出所）農林大臣官房統計課編『昭和十三年米統計表』12，55～57ページから作成。
備考）(1)　日本米の商品化率は，この時期にはほぼ55%内外であるので（全国食糧事業協同組合連合会『戦前戦後米麦流通統計要覧』1952年，27ページ，農林省米穀部編『米穀要覧』1938年，38ページ参照），一率55%として計算している。
(2)　カッコ内の数字は，総流通高に占める割合（%）を示す。

表11-1　階層別農家戸数（千戸，%）

年度	地主（甲）		地主（乙）		自作農		自作兼小作農		小作農		火田民		計
	戸数	%	戸数	%	戸数	%	戸数	%	戸数	%	戸数	%	戸数
1916	16	0.6	50	1.9	520	20.1	1,073	40.6	971	36.8	−	−	2,641
1917	15	0.6	57	2.2	517	19.6	1,061	40.2	989	37.4	−	−	2,641
1922	17	0.6	81	3.1	524	19.7	971	35.8	1,106	40.8	−	−	2,712
1927	20	0.8	84	3.0	519	18.7	909	32.7	1,217	43.8	29	1.0	2,781
1928	20	0.7	83	3.0	510	18.3	854	31.9	1,255	44.9	33	1.2	2,799
1929	21	0.8	83	3.0	507	18.0	885	31.4	1,283	45.6	34	1.2	2,815
1930	21	0.7	82	2.9	504	17.6	890	31.0	1,334	46.5	37	1.3	2,869
1931	23	0.8	81	2.8	488	17.0	853	29.6	1,392	48.4	41	1.4	2,881
1932	32	1.1	71	2.4	476	16.3	742	25.4	1,546	52.7	60	2.1	2,921
			被傭者		自作農		自作兼小作農		小作農		火田民		計
			戸数	%	戸数	%	戸数	%	戸数	%	戸数	%	戸数
1933			93	3.1	545	18.1	724	24.1	1,563	52.0	82	2.7	3,009
1934			103	3.4	542	18.0	721	24.0	1,564	51.9	81	2.7	3,013
1935			111	3.6	547	17.9	738	24.1	1,591	51.9	76	2.5	3,066
1936			116	3.8	546	17.9	737	24.1	1,583	51.8	74	2.4	3,059
1937			117	3.8	549	18.0	737	24.1	1,581	51.7	72	2.4	3,058
1938			116	3.8	552	18.1	729	22.9	1,583	51.9	71	2.3	3,052
1939			111	3.7	529	17.8	719	22.8	1,583	52.4	69	2.4	3,023
1940			101	3.3	550	18.1	711	23.3	1,616	53.1	65	2.2	3,046
1941			92	3.0	548	17.9	723	23.6	1,647	53.6	59	1.9	3,071
1942			95	3.1	529	17.3	729	23.9	1,641	53.8	56	1.9	3,053
1943			130	4.3	536	17.6	845	27.8	1,481	48.6	52	1.7	3,046

［注］　1,000戸未満は切り捨て。地主（甲）は所有地すべてを小作に付す地主，地主（乙）は所有地の一部を小作に付し，一部を自営する地主をいう。火田民は焼畑耕作を行う農民をさす。1933年以降地主（甲）のデータなし，地主（乙）は自作農に算入。

［出所］　朝鮮総督府農林局『朝鮮農地年報　第1輯』同局，1940年，139頁。朝鮮銀行調査部『朝鮮経済年報　1948年版』ソウル：同部，1948年，Ⅰ－28～29頁。

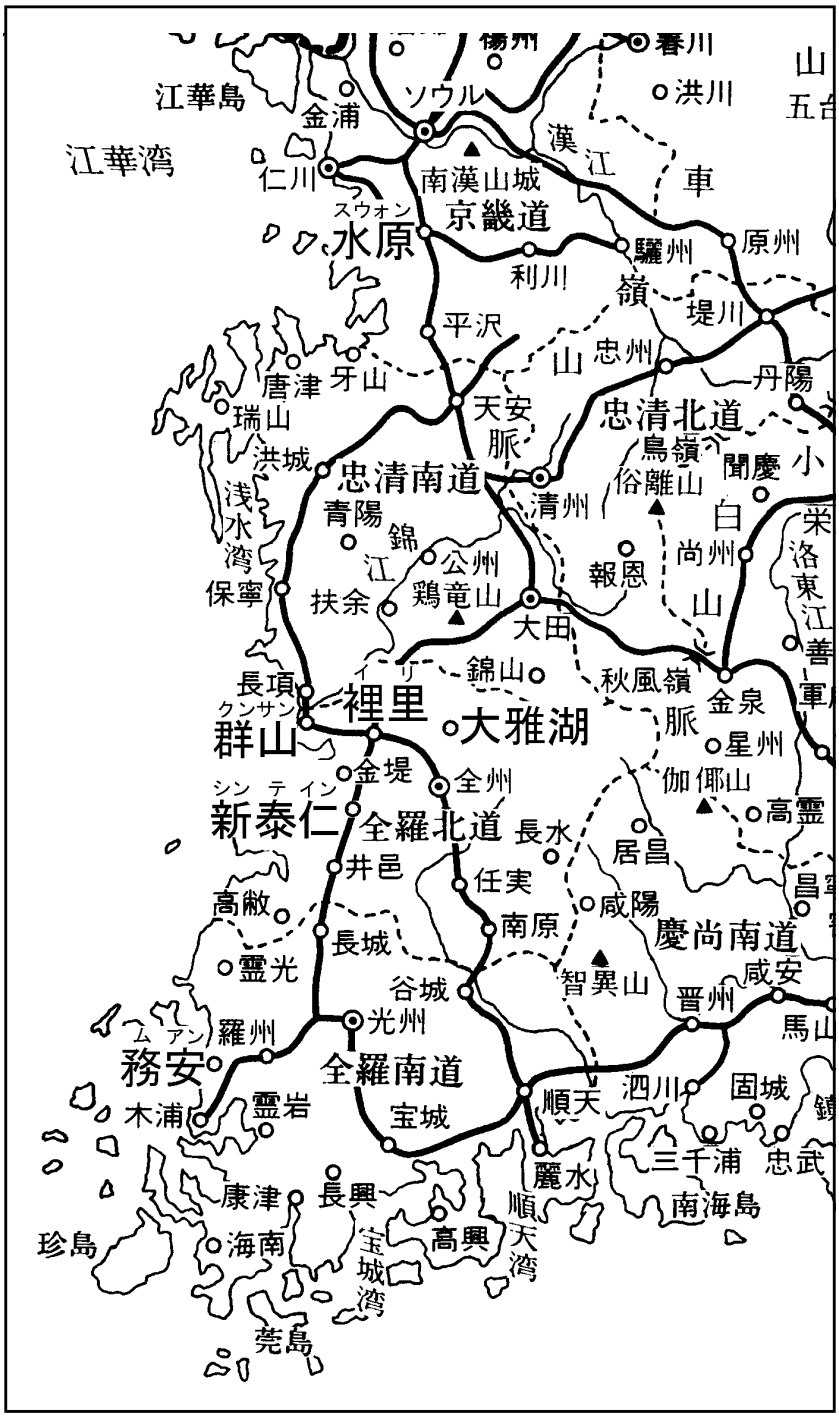
내 사랑 내 곁에

김현식 노래　오태호 작사/작곡

나의 모든 사랑이 떠나가는 날이
당신의 그 웃음 뒤에서 함께 하는데
철이 없는 욕심에 그 많은 미련에
당신이 있는 건 아닌지 아니겠지요
시간은 멀어짐으로 향해 가는데
약속했던 그대만은 올 줄을 모르고
애써 웃음 지으며 돌아오는 길은
왜 그리도 낯설고 멀기만 한지

저 여린 가지 사이로 혼자인 날 느낄 때
이렇게 아픈 그대 기억이 날까
내 사랑 그대 내 곁에 있어 줘
이 세상 하나뿐인 오직 그대만이
힘겨운 날에 너 마저 떠나면
비틀거릴 내가 안길 곳은 어디에

資料02-10



湖南平野：全羅北道・全羅南道に広がる平野で韓国随一の穀倉地帯。

ジャポニカ：おもに日本・朝鮮半島・中国東北部などで栽培。低温に強い。短く円形に近く、炊くと粘りとつやが出る。**インディカ**：中国の中南部から東南アジアでおもに栽培。低温に弱いが、生産量は最も多い。細長く、炊くとパサパサした感じになる。

赤米：ひねて赤みを帯びた下等米。

万頃江（マンギョンガン）　　春窮　　飢餓輸出

イムジン河

作詞:朴 世永
作曲:高 宗漢
日本語詞:松山 猛
補作曲:加藤 和彦
編曲:ありた あきら

イムジン河　水清く
とうとうと流る
水鳥自由に むらがり飛びかうよ
我が祖国　南の地
おもいははるか
イムジン河　水清く、
とうとうと流る

北の大地から
南の空へ
飛びゆく鳥よ　自由の使者よ
だれが祖国を
二つにわけてしまったの
誰が祖国をわけてしまったの

イムジン河　空遠く
虹よかかっておくれ
河よ　おもいを伝えておくれ
ふるさとをいつまでも
忘れはしない
イムジン河　水清く、
とうとうと流る

courtesy of FUJIPACIFIC MUSIC INC.

僕が“イムジン河”という歌を初めて耳にしたのは、京都で育った中学生の頃のことだ。
その頃朝鮮系の生徒と日本の若者は、ことあるたびにケンカばかりしているという現実をなんとかしたいという、
純情な動機を胸に、サッカーの対抗試合を提案に出かけた時、当時銀閣寺近くにあった
朝鮮中高等学校の、どこからか聴えてきたコーラスが“イムジン河”だったのだ。
それから数年、十代の終り頃にザ・フォーク・クルセダーズの加藤和彦に、
ステージで歌ってみたらとその歌をつたえた。
あの頃京都はアマチュアによるフォークソング・ブームの只中であり、
そしてアジアの一画ヴェトナムでは、終りのなさそうな戦争が続いていたのだ。
戦争で傷つく人や破壊される文化や暮し、そして政治的対立による国家の分断。そんなことはもうごめんだし、
早く世界が希望にあふれた人間の棲家となれるようにとの、願いをこめて詞を書いたのだった。
ザ・フォーク・クルセダーズのアマチュア時代の自主制作レコード“ハレンチ”が、思いがけなくも世間の
注目を浴び、“帰って来たヨッパライ”に次ぐ、シングル・カット第2弾として用意された“イムジン河”は、
あまりに政治的問題の種にされやすいと、発売を目前に、
東芝レコードが発売を中止するとの判断をしてしまった。
以来三十余年、この歌は封印されてしまったにもかかわらず、多くの人の魂の中で
歌い継がれてきたのだった。当時ラジオ番組で数回流されただけだと言うのに。
イムジン河はそれから、僕にとっても幻の流れとなりそうだったのだが、今から五年前に、在日韓国系の知人が、
松山さんにはあの河を見る責任もあると言われ、彼と共に朝鮮半島三十八度線への旅をしたのだった。
厳寒の一月、凍てつく大気のもと、イムジン河周辺は白氷におおわれていたが、
雪溶けが始ると、機雷が浮ぶとその日に聞いた。
発売中止から三十年以上の時が流れたが、朝鮮半島には事実上の国境と言うべき軍事境界線が
今もあり、また世界の各地では民族や宗教の対立による紛争が、ますますエスカレートするばかりの現実がある。
イムジン河は、地理のうえの河だけではなく、実は人間と人間のあいだにも流れる、
心のへだたりでもあるかも知れないと、僕は大人になって考えたのだ。
二〇世紀に生み出された、イデオロギーの対立、そして経済の世界の南北問題、この世はこれからも
複雑で在り続けるだろうけれど、自らの魂の窓を大きく開いて、他者を見つめその言葉を聴き、
相手の文化に敬意を払うことから、僕たちは生き続けていかねばならないのだ。
今回、封印をとかれた“イムジン河”から、それぞれが乗り越えなくてはならぬ何事かを感じ、
未来への希望の種を、多くの人に発見してもらいたいとこの一文を記した。

松山 猛